

中小企業の災害への備えのすそ野を拡げていく上での新たな視点
～新しい「BCP」の取組～

I 中小企業の事前対策の新たな視点

1. BCPは特別なものではなく普段の経営の外縁

⇒強みを把握し、弱みに備えることは、経営戦略の基本

取り組んでいる中小企業は、BCPを経営の一環として自然に取り組んでいる。

⇒普段から経営改善やBCPに取り組んでいる中小企業は、経済学的に言えば「優良な企業であるというシグナルを有する」。

2. BCPと事業承継は本質的には同じもの

⇒BCPや事業承継は、優れた経営資源を維持・発展させる意味において同様の課題を抱えている。(何を残し、何をやめるか)

(例: 30年以内に7割の確率で南海トラフ地震に遭うため、それに備えること)

3. 小規模事業者にとって、普段の経営の外縁としてBCPは取り組めるもの

⇒外形的に整っていないなくても、実質的な「BCP」は多様に存在。

⇒事例を収集しつつ、小規模事業者も取り組めるそのような「BCP」を促進。

II 「BCP」を念頭に置いた枠組み作りの課題

1. 「BCP」の指導ができる人材の育成

経営指導者は多い > BCP指導者は少ない ⇒どのように育成していくか

2. シグナルの見える化が課題

実質的な「BCP」を的確に評価する仕組み

3. シグナルの見える中小企業へのインセンティブ

III サプライチェーン・地域・組合における取組

1. サプライチェーンや地域（産業集積地、工業団地、商業団地等）において、価値を有する中小企業を認識し、これらの中小企業に「BCP」の取組を促す

2. 個社ではなく、地域や組合単位で「BCP」に取り組むことは効果的

⇒どのような方法で地域や組合の取組を進めていくか

3. 大企業系列への「BCP」の促進

IV 災害への備えとしての保険・共済の活用

1. 災害時（地震除く）における損害補てんには保険・共済を活用するのが肝

⇒保険等でカバーできる状況であるが、活用できていない現状がある。

それにどう対応していくのか

2. 保険等でカバーできない部分を「BCP」でどのように普及させていくか